



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2019.6

No. 423

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



# 2019年冬 カモ科カウント調査結果

## 日本野鳥の会埼玉 調査部

今回の調査は2019年1月12日～1月20日の間に、県内69カ所で行われました。この調査で18種、総個体数9586羽（昨年から13%減少）が記録されました。調査個所が増加した2014年以来、1万羽台を割ったのは2017年について2例目となります。

個体数が1000羽を超えたのはコガモ(2180羽)、マガモ(1896羽)、カルガモ(1812羽)、ヒドリガモ(1485羽)の4種でした。これらを昨年と比べるとヒドリガモはほぼ変わらず、コガモは10%減、マガモは23%減、カルガモは29%減となりました。

オシドリは昨年の80羽から1羽(古利根川)へ減少しました。一方、昨年は3羽のみだったズガモが今年は48羽記録されました(玉淀ダム45羽、彩湖3羽)。ズガモは東京湾には数万羽が生息していますが、内陸でまとまって記録される例は珍しいと言えます。

ソーラー発電パネルが設置された後谷調節池(昨年までは赤堀遊水池と表記、桶川市)では470羽で、多数が記録された昨年の約6割にとどまりました。2017年パネルが設置された芳沼(深谷市)では、昨年の1.3倍の213羽が記録されました。水面に設置されたソーラー発電パネルのカモ類への影響は、今後も注視する必要があります。

カワウは30カ所で416羽が記録されました

(昨年は422羽)。最も多かったのは彩湖(191羽)でした。これに次ぐのが20羽台の3カ所(南畑排水機場・びん沼川20羽、久喜菖蒲公園25羽、越谷レイクタウン湖20羽)でした。(吉見町等のため池群で27羽が記録されていますが、これは9カ所の合計です)。カワウの彩湖への集中は今後も続くのでしょうか？

今回の調査は52名の方にご協力いただきました。厳しい寒さの中での調査、お疲れさまでした。心より御礼申し上げます。今後とも、ご協力よろしくお願い申し上げます。

(調査部 三好正幸、小林みどり)

<調査協力者> (敬称略) 相原修一、相原友江、浅見徹、新井巖、石井智、石川敏男、石塚敬二郎、伊藤芳晴、今村富士子、榎本秀和、海老原教子、大井智弘、小貫正徳、大塚純子、河辺典子、工藤洋三、小荷田行男、小林ますみ、小林茂、小林みどり、小林洋一、駒崎政雄、佐久間博文、佐野和宏、佐藤宏、鈴木秀治、中間清美、千島康幸、手塚正義、長嶋宏之、長野誠治、長野真由美、中村治、中村豊己、野口修、長谷部謙二、畠山孝、菱沼一充、菱沼洋子、藤掛保司、藤掛宮子、藤澤洋子、藤澤哲郎、溝橋菜乃、藤原寛治、藤原真理、茂木幸蔵、森本國夫、三好正幸、山部直喜、吉原俊雄、吉原早苗

総計&増減比	コハクチヨウ	オオハクチヨウ	オシドリ	オカヨシガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	アメリカカヒドリ	マガモ	カルガモ	ハシビロガモ	オナガガモ	トモエガモ	コガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ホオジロガモ	ミコアイサ	カワアイサ	カモ不明種	カモ科個体数	カモ科種類数	カワウ
2019年種別総計	147	6	1	122	79	1485	0	1896	1812	91	234	2	2180	657	751	48	47	22	3	3	9586	18	416
2018年種別総計	177	3	80	89	57	1514	2	2450	2565	87	423	6	2431	476	643	3	26	15	4	20	11072	20	422
増減比(2019/2018)	0.83	2.00	0.01	1.37	1.39	0.98	0.00	0.77	0.71	1.05	0.55	0.33	0.90	1.38	1.17	16.00	1.81	1.47	0.75	0.15	0.87	0.90	0.99

2018年の個体数には彩湖のアカハジロを含む。



# 2019年春 シギ・チドリ類 調査報告

日本野鳥の会埼玉 調査部

日 時：2019年4月29日 9:40～11:25  
 場 所：さいたま市 大久保農耕地  
 天 候：晴れ

高気圧が日本の東にあり、東日本を覆っていたため晴れて、調査にはとてもよい日となりました。また、10連休中にもかかわらず、18名もの協力が得られました。ありがとうございました。

今年は4月の気温が低かったせいか、田の作業が遅く、昨年と同じように代掻きが終わっていない田が半分近くあり、田植えが終わっている田は少ししかありませんでした。そのためか、全体の種数、個体数は3種24羽にとどまりました。

しかし、昨年と比較すると、種数で1種、個体数で8羽多くなりました。これは2年ぶりにムナグロが19羽観察されたのが原因です。今年も対岸（荒川右岸）の志木市宗岡では、同時期により多くのムナグロが観察されているので、田植えの時期などの条件が悪く

なっているのかもしれませんが。

表は春の調査結果のうち、最近の10年間をまとめたものです。それ以前の記録は「しらこぼと」2012年6月号（No.338）をご覧ください。

※タシギ属不明種は種数に入れませんでした。  
 ※調査終了後、個人的にAs区に行ったところ、30羽のムナグロを観察しました。

(石井 智)



## 春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
調査日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	晴れ
1 ケリ		1								
2 ムナグロ	5	7	45	211				64		19
3 コチドリ	4	3	9	11	10	5	6	6	7	4
4 セイタカシギ						1				
5 チュウジシギ		1								
6 タシギ	1		1	8	2		9	2	6	1
7 チュウシャクシギ		8		2	1	2	4	1		
8 タカブシギ		1		1				1		
9 オジロウネン				1						
10 タマシギ				2						
タシギ属不明種	1					2	1		3	
合計	11	21	55	236	13	10	20	74	16	24

## 野鳥記録委員会の最新情報 日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

### ●ムジセッカ

英名 Dusky Warbler

学名 *Phylloscopus fuscatus*

分類 スズメ目ムシクイ科ムシクイ属



(撮影：山田東二会員)

木戸利行さん（未入会の方）より、2019年3月6日午後1時30分ごろに、さいたま市岩槻区内で撮影したムジセッカの写真が寄せら

れました。その後、大森茂男会員から3月9日に、山田東二会員から翌10日に、それぞれ同所で撮影した写真も届きました。

写真を検討した結果、①上面は一律な灰褐色、②脇から下尾筒にかけて淡褐色、③尾が短い、④明瞭な眉斑は、目の前方が後方より細く淡色、⑤嘴は細長くて、上嘴が黒く下嘴は黄褐色、⑥足は細く濃褐色、等の特徴を確認したので、当委員会は本種をムジセッカと認定し、345番目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

本種は、シベリア南東部・中国北東部・モンゴルなどで繁殖し、中国南部・インドシナ・インド東部などで越冬します。我が国では数少ない旅鳥や冬鳥として記録され、関東地方では栃木、茨城、千葉、東京で記録があります。

### マイフィールドって、いいなあ！ 浅見 徹(さいたま市)

マイフィールドの特集記事って、好きだなあ！ 行きつけのフィールドを持って、観察を続け、記録し、残す（できれば公表する）。もし、まだでしたら是非始めてみてください。

私は現役時代、勤務先（さいたま市）の近くに、通称「西新井の森」（53397436）があり、ここがマイフィールドでした。昼休みにバードウォッチングを楽しみ、観察記録を付けていました。今は、訪れることもなくなりましたが、残された観察記録を読み返すと色々な出会いや発見が蘇り、今でもワクワクします。

現在のマイフィールドは、愛犬との散歩コースの大宮第二公園周辺（53397501）と第三公園周辺（53396591）です。ここでの観察記録は、「野鳥リポーター」として定期的に調査部に送っています。調査部（森本さん、『しらこぼと』2017年9月号、第402号参照）に申請すれば、エクセルの入力様式を提供してもらえます。

実のところ、現在のマイフィールドの夏場

はとっても寂しいです。カラスとスズメとキジバトだけなんていう日が続きます。でも、そこが踏ん張りどころ。猛暑の夏も季節は確実に移っていました。ある年の8/27、大宮第三公園の干上がった池に、涼しげな姿のシギが1羽降り立ったのです。愛犬に「お座り」をさせ、じっくり観察。大きさ、色合い、動きからクサシギと判定しました。当地初記録です。こんな出会いが、マイフィールドの喜びです。

マイフィールドの特集記事は、『しらこぼと』にたくさん掲載されています。古くは1984年9月号の「菅生沼」を初めとして、80箇所以上のフィールドが紹介されています。バードウォッチングのガイドとしてだけでなく、昔と今の鳥相の違いや環境の変化などを知るうえで貴重な資料です。

当会のホームページからバックナンバーを読むことができますので、一度覗いてください。「フィールド」をキーワードに検索（Windowsなら[Ctrl]+Fでページ内の検索が可能です）すると、興味深い記事が次々と見つかりますよ。



## 野鳥情報

**上尾市平方領領家** ◇11月4日、ツグミ3、モズ6、アオサギ2、オナガ12、シメ3、ヒメアマツバメ2、ツミ。11月11日、エナガ8、モズ3、キジ4、ヒバリ3、タヒバリ2、シロバナワレモコウの花にジョウビタキ♂2。12月21日、カワラヒワ10、ヒバリ3、タヒバリ2、モズ5、キジバト9、アオサギ2、コゲラ5、アカゲラ♀1、ヒメアマツバメ2、シメ4、ツグミ7、キセキレイ2、柿畑でハシブトガラス18。12月30日、コジュケイ3、キジ3、メジロ15、ツグミ9、オナガ8、ヒヨドリ38、ムクドリ48、スズメ23、キジバト12、エナガ10、カシラダカ4、カルガモ8。1月2日、シロチドリ、タシギ2。2月10日、タシギ2、アカハラ1、カワセミ2、カワウ3 (村越百合子)。

**上尾市堤崎** ◇11月24日、キショウブの切株の所にクイナ2。1月24日、キジ3、カケス、ウグイス、ベニマシコ、アオジ、ホオジロ。2月19日、コジュリン6、ホオジロ7、キジ3。オナガ19、アオジ5、タシギ1 (村越百合子)。

**上尾市地頭方～平方領領家** ◇11月27日、ヒバリ5、タヒバリ2、ヒメアマツバメ3。柿畑でメジロ13、ツグミ14、エナガ5。住宅のフェンスでジョウビタキ♂が向かい合って鳴いていた。12月27日、ツグミ6、ジョウビタキ♀4♂3、アオジ5、ホオジロ7、アトリ1、カワラヒワ24、シメ3、メジロ18、ハクセキレイ8、セグロセキレイ5、ヒメアマツバメ5 (村越百合子)。

**上尾市地頭方** ◇12月3日、柿畑でシジュウカラ8、スズメ28、シメ3、ツグミ12、メジロ14、ムクドリ38、オナガ8、キジバト7 (村越百合子)。

**桶川市川田谷** ◇1月17日、サイクリングロードを走っていると子猫のような声が聞こえた。探してみるとホンダエアポート滑走路草原にタゲリ♂2 (村越百合子)。

**久喜市菖蒲町小林** ◇1月18日、電線にとまったり、畑に降りたりを繰り返すニューナイスズメ約200の群れ (鈴木紀雄)。

**さいたま市南区曲本1丁目** ◇1月20日、新大宮バイパスの側溝でコサギ1、カルガモ1番い (陶山和良)。

**さいたま市桜区** ◇1月20日、鴻沼川、新大宮バイパスの立花橋上流でマガモ4番い、コサギ (冠羽あり、背に飾り羽もあり) 1、オオバン22 (陶山和良)。

**新座市平林寺** ◇1月22日、ヒヨドリ、ハクセキレイ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、シメ、シロハラ。ハシブトガラス、頭上近くで「コロ コロ コロ」と珍しい鳴き声で自分の耳を疑った (陶山和良)。

**上尾市平方** ◇1月24日、キウイフルーツ畑でムクドリ26、メジロ9、ツグミ10、シジュウカラ8、スズメ10、電柱にハシボソガラス13。みかん畑でオナガ18、コジュリン7、メジロ12、スズメ10 (村越百合子)。

**越谷市北越谷 大吉調整池** ◇1月26日、オオタカ、ハシボソガラス、アオサギ、マガモ、カルガモ、オオバン、カイツブリ、セグロカモメ、カワラヒワ、モズ、カワセミ (陶山和良)。

**白岡市千駄野 白岡総合運動公園** ◇1月31日、葉を落とした一本の樹冠にシメ33がとまっていた。スズメ200±の群れがフェンスに並んでいた。他にマガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモ、ハシビロガモ等。カモ6種が日向ぼっこ。コサギ1、カシラダカ1など (長嶋宏之)。

**さいたま市大宮区堀の内町3丁目** ◇2月1日午後4時20分、ふと外を見ると、隣の教会のイチョウの木に小鳥が2羽とまった。双眼鏡で覗くと何とアトリ!! 家で見たのは初めて (浅見 徹)。

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇2月2日、釣り人の傍らにコサギが佇んでいた。他にツグミ、メジロ、シジュウカラなど。2月16日、園道でアオジ3が何かを啄んでいた。コゲラが夢中で幹をつついていた。

2月21日、エナガとシジュウカラとコゲラの混群が枝移り。カケスの声が響いた。ツグミが驚いて屋敷林から飛び出した。ツミに追われたようだ。沼にカルガモ25(長嶋宏之)。

**滑川町武蔵丘陵森林公園** ◇2月3日、南口駐車場で亜種ホオジロハクセキレイ。探鳥会前と帰路の2回も確認した。何年ぶりかなあ。以前にも見たことはあったのだが、久しぶりの再確認です。しかも今回は複数人で観察。確かにホオジロハクセキレイでした(大畑祐二)。

**加須市加須はなさき公園** ◇2月8日、ツグミが地面で採餌を始めた。ヒドリガモ66が一群で芝生の草を採餌。カルガモは三々五々小群で47。中にマガモ♀の若鳥がいた。他にオオバン、バン、カイツブリ、コガモ、ダイサギ、アオサギ、シジュウカラ、シメ、カワラヒワなど(長嶋宏之)。

**さいたま市見沼区春野 N35. 9479 E139. 6788**  
◇2月15日、ホオジロ、カシラダカ、ツグミ、シメ、モズ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、カワウ、スズメ、ムクドリなど(長嶋宏之)。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇2月16日、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、イソシギ、イカルチドリ、オオタカ(声)、コゲラ、カワセミ(声)、カイツブリ、カワウ、シジュウカラ、ヤマガラ(声)、ツグミ、メジロ、シロハラ、シメ、カワラヒワ、モズ、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、エナガ、アトリ、ジョウビタキ♀1、ベニマシコ♂1♀1、カケス、ウグイス、ハクセキレイ、セグロセキレイなど(鈴木紀雄)。

**渡良瀬遊水地** ◇2月16日、チュウヒ10、ハイイロチュウヒ♂1♀1、コチョウゲンボウ3(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区南辻** ◇2月17日夕刻、久伊豆神社近くの遊水池でオオバン1、バン1、クサシギ1、ヒドリガモ、マガモ、埧入り前に水浴びするハシボソガラス、ハシブトガラス、ミヤマガラス(鈴木紀雄)。

木紀雄)。

**吉見町吉見総合運動公園** ◇2月18日、グラウンドでタゲリ12が採餌。順光で綺麗だった。川の中州でイソシギ、タヒバリ、ハクセキレイが採餌。草原でホオジロ、カシラダカ、アオジ。ノスリがジッと何かを狙っていた。樹林ではカワラヒワ50±の群れ。ジョウビタキ、ムクドリ、メジロ、キジバトなど。空にオオタカ、トビが旋回した(長嶋宏之)。

**さいたま市見沼区膝子** ◇2月19日、畑地でタゲリ♂1♀2、ハシボソガラスを含むミヤマガラス50±の群れ(鈴木紀雄)。

**深谷市本田 N36. 1332 E139. 2933** ◇2月19日、コハクチョウ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、カルガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロ、コガモ、カイツブリ、イソシギ、ホオジロ、カシラダカ、シメ、アトリ、エナガ、シジュウカラ、コゲラ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、キジバト、ダイサギ、ウグイス、ガビチョウなど(長嶋宏之)。

**さいたま市見沼区片柳東** ◇2月22日、樹木の枝にとまるノスリ1、毎年この付近で越冬する(鈴木紀雄)。

**上尾市平方** ◇2月23日、ノスリ3、オオタカ1(村越百合子)。

**さいたま市中央区八王子5丁目** ◇2月25日朝、かやのき団地8号棟前のイチョウの枝陰にツミ1。1週間前から時々鳴き声が聞こえていた(大塚純子)。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園** ◇2月25日、ピクニックの森でルリビタキ♂1、ガビチョウなど(鈴木紀雄)。

**さいたま市中央区本町西** ◇2月26日、与野公園でシメ10、アトリ20±が落ち葉の上や芝生で採餌(大塚純子)。

#### 表紙の写真

#### チドリ目チドリ科タゲリ属ケリ

5月2日(木)撮影。3羽はどのような関係かわかりませんが、2羽いるところにもう1羽飛来して並びました。

藤原寛治(さいたま市)



## 行事案内



シジュウカラ幼鳥 (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

**参加費：**中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

**持ち物：**健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻：**特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月2日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス 8:38 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、大畑、岡安、近藤、柴田、千葉、飛田、内藤、永野、村上(政)、吉原(早)

見どころ：4月の臨時探鳥会では、キビタキ、オオヨシキリに会えました。6月はこれらに加えてカッコウ、ホトトギスを期待します。声だけですが、サンコウチョウも高い確率で確認されています。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：6月2日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、「東川口駅北口」行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：須崎、伊藤、大井、高崎、手塚、野口、藤田、若林

見どころ：芝川第一調節池周辺は子育てシーズンになります。アオサギ・カワウ・オオバン等の留鳥、ツバメ・オオヨシキリ等の夏鳥をじっくり観察しましょう。

ご注意：①コースの途中にトイレはありません。

②コース上に日陰が少ない為、天候によってはコースを変更・短縮します。

### 羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：6月5日(水) 平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バスの手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)を利用。東武伊勢崎線 羽生駅東口 8:04 発→南羽生駅 8:21 発→「キャッセ羽生・水郷公園」下車、県道を渡り公園へ。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：芝生広場ではあちこちでヒバリが遊び、青葉にひそむ夏鳥やエサを運ぶ親鳥が飛び回っています。池のアオサギは今年も巣立っているでしょうか。

注意：帰りのバスは 14:50 発です。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月9日(日)

集合：午前9時40分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:21 発、または寄居 8:59 発に乗車。

担当：新井、鶴飼、大畑、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上(政)、茂木

見どころ：ヨシ原の減少で、数を減らしているオオヨシキリに会いたいな。ホトトギスも姿を見せてくれるといいですね。

### 『しらこぼと』袋づめの会



とき：6月15日(土) 午後3時～4時ころ  
会場：会事務局 108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月16日(日)

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。  
交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から  
渡り、50m先左手バスターミナルから東武  
バス「さいたま市立病院」行き 8:23 発で終  
点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、浅見(徹)、浅見(健)、楠見、小  
菅、小林(み)、須崎、畠山

見どころ：梅雨真っさかりなので天気が心配  
ですが、この時期しか見ることのできない  
鳥達の親子を探したいと思います。勿論カ  
ルガモ親子も！

### 日本野鳥の会埼玉 総会のご案内

日時：6月29日(土)

午後1時00分 受付開始

午後1時30分～2時20分 記念講演

午後2時30分～4時00分 総会

会場：浦和コミュニティーセンター(さいたま  
市浦和区東高砂町11-1)第15集会室

交通：JR 京浜東北線浦和駅東口の直ぐ前、浦  
和パルコ・コムナーレの10階です。

記念講演：本部事務局長兼普及室室長の富岡  
辰先氏による「初心者向けバードウォッチ  
ングの成果と課題」。

総会議題：平成30年度事業報告と決算報告、  
令和元年度事業計画案と予算案、役員の選  
出。

参加資格：埼玉会員であればどなたでも。

前年度の活動を振り返り、新年度の予算や  
方針を決める大切な総会です。多くの皆さん  
のご参加をお待ちしています。

### 長野県・乗鞍～上高地探鳥会(要予約)

期日：7月27日(土)～28日(日)

集合：27日午前6:30 大宮駅東口または午前  
7:00 川越駅西口の2ヵ所。

解散：28日午後9:00 川越駅西口または午後  
9:45 大宮駅東口の2ヵ所の予定。ただし、  
高速道路の渋滞等の交通事情により変更

することがあります。

交通：集合地から貸切バス(27人乗り中型)  
を使用。

費用：42,000円の予定(往復の交通費、宿泊  
代、2日目の昼食代、保険代等を含む)。

※過不足の場合は当日清算。

※集合・解散場所までの交通費は各自負担。

定員：24名(野鳥の会会員限定、応募多数の  
場合は先着順、埼玉会員優先)。最少催行  
人員18名。

申し込み：往復葉書に住所・氏名(ふりがな)・  
電話番号・性別・生年月日・年齢(保険加  
入に必要)・集合場所が大宮か川越を明記  
して、入山博( )まで。6月1日以降の消印から  
有効受付とします。

担当：入山、近藤

見どころ：猛暑の埼玉から「涼」を求めて長  
野県松本市の乗鞍と上高地を訪れます。過  
去2回の探鳥会では、乗鞍でライチョウ、  
上高地でコマドリを見る事が出来ました。  
鳥以外にも、コマクサ等の高山植物の花々  
や穂高連峰の景色を楽しむ事が出来ます。  
その他：宿泊は「五千尺ロッジ」で、1部屋  
2名です。ご夫婦・親子での同室は可。そ  
れ以外は男女別の相部屋で個室の用意はで  
きません。参加者には後日詳しい案内を発  
送します。

### カワリシロハラミズナギドリ

松井昭吾(さいたま市)

『しらこぼと』5月号にて初見です。手元  
のあらゆる資料にて精査しましたが、自分で  
は到底その同定は無理でしょう。

学名 *Pterodroma neglecta* の *neglecta*  
には「見落とされていた」という意味がある  
ようです。一般的な英語で Neglect とは、無  
視する、見過ごす、見落とすの意味です。最  
近の幼児虐待のネグレクトとは「無視して放  
置する」ということなんですね。

単なる「シロハラミズナギドリ」とはちょ  
っと違って「無視されて」いた、または「軽  
視されて」いたのでしょうか？

久しぶりに刺激的な勉強になりました。



## 行事報告

1月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、三ツ矢正安、吉原早苗、吉原俊雄

1月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 35(会員28)名 天気: 晴

オカヨシガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン トビ ハイタカ カワセミ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (31種) (番外: ドバト) 北宿大橋手前から芝川右岸を川下方面へ。ハイタカ属の猛禽が、低空で我々を追い越し、大スズカケに止まってくれた。皆で順光側に回り込んでスコープを覗くと、胸から腹に細い橙色の横斑が美しいハイタカみだった。後半は、ゴイサギ11羽、締めにかワセミ。(浅見 徹)

1月24日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 32(会員25)名 天気: 晴

オカヨシガモ ヨシガモ マガモ カルガモ オナガガモ トモエガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ オオバン タゲリ トビ ハイタカ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (38種) (番外: ドバト) ヨシ原ではオオジュリンが鳴き、姿も見られた。池ではトモエガモ♂に歓声。別の池では♀2羽。上空にはオオタカやハイタカ、チョウゲンボウが舞った。最後に陽光を浴びたカワセミを観た。(相原修一)

1月26日(土) 蓮田市 黒浜沼

参加: 40(会員31)名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ バン オオバン オオタカ カワセミ ハヤブサ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (37種) (番外: ドバト) 開始早々ヨシ原でベニマシコ♂2羽と♀1羽が出てくれ、♂の鮮やかな紅色に歓声があがった。ウグイスも近くで「丸見え」状態。ホオジロ類は数多く見られた。沼ではクイナやカワセミ、カイツブリの20羽弱の群れも見られた。オオタカやハヤブサが複数回飛翔してくれた。(長野誠治)

1月27日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 40(会員35)名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ イカルチドリ イソシギ トビ ノスリ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (31種) ライン下り発着場の河原で、カルガモ、マガモなどを観察。南桜通りでシメ、ジョウビタキ、水管橋上は強風で鳥見に集中できずに移動、蓬萊島公園でカシラダカの群れ、カラ類、メジロを見て終了。(井上幹男)

1月27日(日) 長瀬町 長瀬 Beginner

参加: 28(会員8)名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ カワウ トビ オオタカ モズ ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ (21種) 知名度の高い場所での開催だからか? 半数の方が県外からの参加者。見事な青空が広がるも、強い風に鳥の出はイマイチ……。それでも“岩畳”をはじめとした長瀬ならではの景観を楽しみながら探鳥できた。(石塚敬二郎)

1月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 32(会員22)名 天気: 快晴

オカヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ  
ダイサギ コサギ オオバン イカルチドリ タシギ  
イソシギ ユリカモメ トビ ハイタカ コゲラ  
アカゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス  
ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ  
ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ  
ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ  
ハクセキレイ セグロセキレイ シメ ホオジロ  
アオジ(40種)(番外: ドバト) この冬は鳥が少ない  
と思っていたが40種。熱心な参加者の皆さん  
がいれば見つかるものだ。青い鳥3種(カワセミ、  
イソヒヨドリ、ルリビタキ)を見どころにしたが、  
空振りで残念だった。(長谷部謙二)

1月31日(木) さいたま市 彩湖

参加: 31(会員23)名 天気: 曇

キジ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロ  
ハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイ  
ツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ  
アオサギ オオバン ヒメアマツバメ タゲリ  
イカルチドリ イソシギ ユリカモメ セグロカ  
モメ トビ オオタカ カワセミ コゲラ モズ  
ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ  
ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハ  
ラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレ  
イ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ  
アオジ(41種)(番外: ドバト、ガビチョウ) ラ  
ンナーも自転車も少なく、久々に西岸を管理橋ま  
で歩く。前日の下見で、ミコアイサは、♂3羽・  
♀1羽だったが、この日は♂1羽・♀4羽。おそ  
らく違う群れなのだろう。水際にはイカルチドリ  
やイソシギ。4羽のタゲリが上空を飛んだ。水鳥  
類は賑やかだったが、小鳥類はやや寂しく、ベニ  
マシコも現れなかった。(小林みどり)

2月2日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 36(会員35)名 天気: 快晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ  
アオサギ ダイサギ クイナ バン オオバン  
イカルチドリ イソシギ オオタカ ノスリ カ  
ワセミ コゲラ アカゲラ ハヤブサ モズ ハ  
シボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シ

ユウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ  
メジロ ムクドリ トラツグミ ツグミ ジョウ  
ビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セ  
グロセキレイ カワラヒワ シメ イカル ホオ  
ジロ カシラダカ アオジ(42種)(番外: ドバト、  
ガビチョウ) 土塁のところでトラツグミが飛び  
出して倒木に止まってくれ、じっくり見られた。  
シジュウカラやヤマガラが鳴いていた。ノスリが  
ハシブトガラスに追われ木の中から飛び出し、上  
空をハヤブサが帆翔。河原にセキレイ3種、イカ  
ルチドリがいて、イソシギ、カワセミも現れた。  
川沿いの林にアカゲラとコゲラ。上流にはオオバ  
ン、バン、クイナ。カワラヒワ、ヒバリがさえざ  
り、最後にキジも鳴いた。(千島康幸)

2月2日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 28(会員18)名 天気: 快晴

マガモ コガモ カイツブリ カンムリカイツ  
ブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオ  
サギ ダイサギ トビ オオタカ ノスリ コゲ  
ラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウ  
カラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シ  
ロハラ ツグミ ルリビタキ スズメ ハクセキ  
レイ セグロセキレイ タヒバリ シメ アオジ  
(29種)(番外: ドバト、ガビチョウ) 定番のカ  
ンムリカイツブリは350+の群れで前年並みだっ  
たが、カモ類はマガモ、コガモのみで数も激減。  
小鳥類はシロハラ、ルリビタキ、シメ等を何とか観  
察し、ゴール直前ようやくツグミを確認して安堵  
した次第で、冬鳥が少ない今季を痛感。「冬鳥  
の姿少ない野を歩み ツグミの一羽見つけ喜び」  
(石光 章)

2月3日(日) 志木市 柳瀬川 Beginner

参加: 29(会員5)名 天気: 晴

ヒドリガモ カルガモ コガモ キジバト カワ  
ウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン イ  
カルチドリ トビ モズ ハシボソガラス ハシ  
ブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ  
ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグ  
ロセキレイ カワラヒワ(23種)(番外: ドバト)  
開始挨拶時にカワラヒワ他の歓迎を受けた。川沿  
いにスタート早々、サギ類、カモ類が登場。なか  
なか先に進めなかった。初心者にはお腹いっぱい  
の23種となった。(石塚敬二郎)



### ●日本野鳥の会茨城県の野鳥と共存できるハス田を目指す署名運動

同会の池野進会長が『野鳥』誌5月号 37 ページで報告したところによると、請願書提出前日までに目標 10,000 筆を大きく上回る 15,927 筆の署名が全国 47 都道府県と 15 カ国から集まり、3月6日県議会事務局に請願書を提出したとのこと。

ご協力くださった皆様に、厚くお礼申し上げます。

### ●シラコバト保護対策検討会議に出席

県みどり自然課による第 10 回シラコバト保護対策検討会議が3月14日(木)さいたま市内の埼玉教育会館で開催され、当会から小林みどりが出席。今年度の各種シラコバト調査についての報告、来年度の事業計画についての説明などがあったと、4月21日(日)の当会役員会で報告しました。

### ●会員数は

5月7日現在 1,589 人です。

## 活動と予定

### ●4月の活動

- 4月13日(土)、5月号校正 (海老原教子、海老原美夫、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)
- 4月14日(日)、熊谷市荒川公民館会議室で普及部会開催。出席者 14 名。
- 4月15日(月) この日までに作成した県補助事業実績報告書と添付書類を、みどり自然課担当者に提出(海老原美夫)。
- 4月21日(日) 役員会(司会：菱沼一充、各

部・委員会等の報告、次年度普及部費用について、など)。

4月22日(月)『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』5月号を、郵便局から発送 (海老原美夫、山部直喜)。

### ●6月の予定

- 6月1日(土) 編集部会。普及部会。
- 6月8日(土) 7月号校正(午後4時から)。
- 6月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 6月16日(日) 役員会(午後4時から)。

## 編集後記

行事案内、総会の記事で、「年度」の表示について考えた。4月1日から翌年3月31日までを年度の区切りとする場合、4月1日時点での年号で呼ぶ場合が多いようだ。例えば平成は1989年1月8日から始まったので、その年の4月1日からの年度は「平成元年度」と呼ばれた。それでいくと、今年4月1日時点では「平成」だったのだから、今年度は「平成31年度」ということになる。

ところが、政府は国の今会計年度の名称について、原則、改元日以降は年度全体を通じて「令和元年度」とするとの通達を出したそう。それに従う訳でもないし、どうしなければならないという決まりも特にないようだが、分かりやすさを重視し、山部編集部長らの賛同も得て、総会案内記事では、前年度を「平成30年度」、今年度を「令和元年度」とした。(海老原)

4月下旬、県みどり自然課より平成30年度シラコバト生息状況調査結果が届いた。生息羽数は44。姿を確認しづらい繁殖期とはいえこれは少ない。驚く。しかもその内の19が私の調査結果からである。さらに驚く。令和元年度調査は非繁殖期とのこと。いまから気を引き締めている。(山部)

しらこぼと 2019年6月号(第423号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
 郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 [office@wbsj-saitama.org](mailto:office@wbsj-saitama.org)  
 編集部への原稿 [yamabezuku@wbsj-saitama.org](mailto:yamabezuku@wbsj-saitama.org) 編集部への野鳥情報 [toridayori@wbsj-saitama.org](mailto:toridayori@wbsj-saitama.org)  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 [gyomu@wbsj.org](mailto:gyomu@wbsj.org)  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社